

産業建設委員協議会記録

開会年月日	令和6年11月18日
開会時刻	午前10時54分
閉会時刻	午前11時17分
出席委員名	◎福井輝夫 ○三野泰嗣 上村和生 北村 勝
	野口佳子 品川幸久 宿 典泰
	藤原清史 議長
欠席委員名	なし
署名者	—
担当書記	森田晃司
協議案件	1 地域経済循環創造事業について
説明員	産業観光部長、産業観光部参事、商工労政課副参事、都市整備部長、 情報戦略局長、情報戦略局次長、財政課長、その他関係参与

協議経過

福井委員長が開会を宣告し、会議成立宣言の後、直ちに会議に入り、「地域経済循環創造事業について」を協議し、協議会を閉会した。

なお、詳細は以下のとおり。

開会 午前10時54分

◎福井輝夫委員長

ただいまから産業建設委員協議会を開会いたします。

本日の出席者は全員でありますので、会議は成立しております。

本日御協議願います案件は報告案件として、「地域経済循環創造事業について」であります。

議事の進め方につきましては、委員長に御一任願いたいと思いますが、御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

◎福井輝夫委員長

御異議なしと認めます。そのように取り計らいをさせていただきます。

【地域経済循環創造事業について】

◎福井輝夫委員長

それでは、報告案件の「地域経済循環創造事業について」当局から報告をお願いいたします。

産業観光部長。

●佐々木産業観光部長

本日は御多用の中、産業建設委員会に引き続き、産業建設委員協議会を開催していただきましてありがとうございます。

本日御協議いただく案件につきましては、ただいま委員長から御案内のとおり、「地域経済循環創造事業について」の報告案件が1件でございます。

詳細につきましては、担当のほうから御説明申し上げますので、どうぞよろしく願いいたします。

◎福井輝夫委員長

商工労政課副参事。

●南商工労政課副参事

説明に入ります前に資料の記載内容に訂正があり、資料の差し替えをさせていただきますので申し訳ございませんでした。

それでは「地域経済循環創造事業について」御説明申し上げます。

1の「目的」でございます。総務省では産学金官の連携により、地域の人材・資源・資金を活用して新たなビジネスの立ち上げを支援する地域経済循環創造事業交付金、いわゆるローカル10,000を実施しています。

この交付金を活用して、市内で公共的な課題を解決する新たなビジネスを立ち上げようとする民間事業者に対して、その事業の初期投資費用を支援することで、産学金官が一体となって、将来にわたって富を生み出していく仕組みづくりに取り組んでいくものでございます。

次に、2の「事業内容」でございます。事業内容としましては、民間事業者が地域金融機関等の融資等を生かして資金の一部を調達し、市内において地域の密着性、地域課題への対応、新規性などの要件を満たした事業を行う場合に、その事業の初期投資費用の一部を国及び市が補助するものでございます。

次に、3の「今後の対応」でございます。令和7年度からこの交付金制度を活用して新たに補助事業を行うに当たりまして、12月定例会において、1件当たり5,000万円を2件として1億円の関係予算の債務負担行為の設定に係る補正予算案の提出を予定しております。債務負担行為設定に係る補正予算案を御承認いただきました場合、4の「スケジュール」のとおり、申請対象案件を民間事業者等に対して公募させていただきまして、国の定める諸要件を充たすものを市から国に対して選定の上で申請をさせていただきたいと思っております。この交付金制度では毎月10日に申請の締切が設定されていますが、補助の対象事業の年度内完了が条件とされているため、できるだけ早期に着手ができるように、令和7年度早々に国に対して申請を行う予定をしております。このことから、今年度内に予算の執行は予定をしておりますが、市からの申請案件の決定は今年度内に行い、その後、総務省における有識者による審査を経て交付決定となれば、市としても対象事業の交付決定を行うこととなります。このように交付決定に直結する行為に今年度内から取りかかりたいため、今般、債務負担行為設定を行おうとするものでございます。

以上、「地域経済循環創造事業について」御説明申し上げます。よろしくお願い申し上げます。

◎福井輝夫委員長

本件は報告案件であります。特に御発言がありましたらお願いいたします。

品川委員。

○品川幸久委員

産学金官の事業でなんですけど、文言的に言われとることは分らないんですけど、実際この補助金事業になる前にね、全国的にこういう事業がやられとってこれが値するよねっていうようなことが何かこう説明していただくと、こういう事業のことを言うてるんやなということが分かりやすいんですけど、当局のほうで例としてっていうんじゃないかって、大体、ああいうとこでこういう事業をされとるよね、これが実際これに値しますよねっていうことが分かっておれば出して、ちょっと説明いただきたいと思います。

私ちょっとそこら辺が、皆さん分かってみえるのか分かりませんが、ちょっと頭の中でどういう事業なんかなというところが分らないので、教えてください。

◎福井輝夫委員長
商工労政課副参事。

●南商工労政課副参事

すみません、この事業、交付金事業になりますが、大規模な工事が伴うものでございまして、近隣でいきますと鳥羽市さんが鳥羽マルシェというのを鳥羽港のところ、つくりやっていたきまして公設民営という形で農水産物の直営の拠点として、にぎわいの創出をいただいているというふうな一例がございます。以上でございます。

◎福井輝夫委員長
品川委員。

○品川幸久委員

非常によく分かった、鳥羽マルシェって言うてもらえば大体分かります。

ただそれが今回、伊勢市がこういう事業を始めるについて、伊勢市ではなかったんでしょうかね。同じようなことを多分、こういう事業にかからんだのか。鳥羽はそれの事業に手を挙げて、交付金事業としてやっと思ったのか、鳥羽はもらわずにしてやってしまったのか、そこら辺が僕ちょっと分からないんで、鳥羽市さんは逆にもうこの交付金事業に乗かってマルシェを立ち上げたのか、いやこの事業がなかったんで、鳥羽市さん残念やったな、もったいなかったよねっていうことなのか、ちょっと分からないんで、これは今回始まった事業ということで、今まではなかったということよろしいでしょうかね。

◎福井輝夫委員長
商工労政課副参事。

●南商工労政課副参事

すみません、このいわゆるローカル10,000プロジェクトっていう事業なんですけども、これ平成24年から国のほうで、総務省のほうで立ち上がった事業になりまして、これ鳥羽マルシェ、鳥羽市さんのほうはこの交付金を活用してその整備をされたという状況があります。

伊勢市におきまして、これまで伊勢市のこの交付金に対する問合せというのは今までございませんでした。今年度に入りまして、問合せが増えてきました。これにつきましては、コロナが終息をして、その後、金融機関のほうの融資を受けて大規模な事業に取りかかるというところの、今そういうふうな動きが戻ってきたという状況の中から、こういうふうないろいろと問合せが来たのではないかとというふうに考えております。

今伊勢市として、この今こういうふうな動きが高まっているという状況の中で、この辺、この事業を活用して、伊勢市の課題解決につながる事業を後押しすることによって、市内の経済循環の創造に取り組んでいきたいというふうに考えております。以上でございます。

◎福井輝夫委員長
品川委員。

○品川幸久委員

平成24年からやられとったんであれば、これまだ分かりませんが、募集をかけて、それが通ったらその事業が認可されるような話になろうかと思うんですけど、平成24年からこれやられとったら逆に、これ債務負担行為を組んでいくわけなんで、その時から伊勢市も持っておってもおかしくなかったんですよ。と思いますけどね、今声が上がってきたもんでわざわざこれを債務負担行為まで組もうとすれば、平成24年からこういう事業がありますよということを伊勢市がもっと発信して、市内の人に「こういう事業をしてくださいよ」、「こういうものがありますよ」ということが、なぜ今になってちょっとコロナが終わって、声が出てきたって理由じゃなくてね。そこら辺がちょっと分からないんで、もう一回お答えください。

◎福井輝夫委員長
商工労政課副参事。

●南商工労政課副参事

すみません、前々から平成24年から総務省のほうでこういう交付金事業というふうな、その辺の私どもアンテナがちょっと低かったなというところはちょっと反省すべきことかなと思っております。

今後、そういうふうな案件がございましたら、市内にアンテナを張りながら必要に応じて、今後についてもまた検討させていただきたいと思います。以上でございます。

○品川幸久委員
いいです。

◎福井輝夫委員長
他に御発言は。
宿委員。

○宿典泰委員

私も品川委員とよく似た質問を申し上げようと思ったんですけども、平成24年からあった事業というので、なんか今までもこういう大規模な設備投資をしたところっていうのはあるんじゃないかなとって、そこが聞いたらどうなるんです、これは。こういう事業になったじゃないかっていう話で、それは市民の方っていうのか、伊勢市内の企業の人ほうほとんどこんな補助事業のことっていうのは知らないと思うんですよ。それは皆さんのほうから、国の事業がこういうのがありますよとか、こういう新しく始める事業としてはこういう補助交付金がありますよというような案内を出さないと難しいですよ。これを個人で調べて、企業で調べて、今度の計画の中でこれに乗っかってけへんのかみたいなこ

とを調べるなんていうのはとんでもない話だと思うんですけど。こんなことを聞くと、まだ財政課のほうで、もっともっと国の事業を引っ張れるっていうのがあったん違うかなということだと思うんですけど、そのあたりはどうなのでしょうね。

◎福井輝夫委員長
財政課長。

●太田財政課長

私も予算を当初予算を立てるとき、それぞれアンテナを張ってということで、全て財政課のほうで補助金というものが分かるわけではございませんけど、各所属のほうに当然、いろんな事業をやるに当たって、「財源を取れ、国のほうに確認しろ」ということでの確認ということはさせていただいております。以上でございます。

◎福井輝夫委員長
宿委員。

○宿典泰委員

僕申し上げるのは、財政課のほうは具体的にこういうのをやりたくてっていう担当課のほうで、それならこんな国の交付金が取れるか分からんよっていうことになってから、おたくのほうへ予算として出てくる話で、僕が申し上げるのは、国のほうの補助事業とか交付金の関係で、いろんな事業がありますよという、こういう案内をせないかんのと違いますがっていうことを申し上げとんの。そうすると、国から、もちろんこれでいくと、申請が出るわけですから、それで決定しないといかんけども、こういう補助が出るような事業がありますよということ案内をせないかんの違うかっていうことを僕は申し上げとるんです。

だからそれを知らんと、市内の個別の企業が、もう汗かいて金融機関と交渉して、それでやっていたのが、「なんやんこれは。国から2,500万円ももらうんや」ということになりませんかという話をしとるわけですよ。

だから、予算をどうのこうのっていうのは財政課は、それは勝手に「あそこの企業をこれだけやとるみたいやで、これで」って言うてそんなわけにいかん話やから、広報としてはすごい悪いのと違いますが、平成24年からあるっていうなら。もっともっと活性化になるよね、それは。そのことを申し上げとんのやけども、財政課で予算組む組まんの話のもっと前の話だと思うんですよ。ほかにもこんなことなら、国のほうの事業で、福祉であろうが、サービス事業であろうが、こういうのに一遍申請してみますかというのはあるんじゃないかなという気がして仕方ないですよ。だからそれはやはり、市民サービスとしてはきちっと広報をせないかんのと違いますが。違いますが。教えてください。

◎福井輝夫委員長
産業観光部参事。

●東世古産業観光部参事

このローカル10,000プロジェクト、この事業につきましては、民間事業者の初期投資費用のほうを支援対象としとるものでございまして、地域金融機関による融資、それから自己資金、これが総事業費の2分の1以上を占めておるといことが大前提でございまして、残るその2分の1弱のところについて、国費、それから自治体、こういった部分の補助金を充てていこうという事業でございまして。

ちょっと割と特殊な組合せの事業でございまして、我々もちょっと先ほど副参事が申し上げましたとおり、ちょっとなかなかこの情報をキャッチし切れてなかったというか、理解をし切れてなかった部分等もございまして、今回、コロナ禍が明けて、いわゆる金融機関の融資を受けて事業をされてくるところが金融機関と一緒にメニューを探していただいて、市のほうに御相談をいただいたところから今回はスタートしたところでございまして。

仰せのとおり、国のスキーム等々を我々もきちんと理解をした上で広報を今後は漏れのないように努めていきたいと思っておりますのでよろしくお願いたします。

◎福井輝夫委員長
宿委員。

○宿典泰委員

あとはお願いにしか、今の時点ではならんと思うんですけど、やはりそういう広報をきちっとやって、やった上でそれでも全然もう私とこはということやったらもう仕方ないと思うんですけど、この平成24年からやったらもう幾らでもあったんちゃうかなという想像できるので、その人らがこれを聞いたら何やという話になりますよね。鳥羽マルシェの話がありますけど、随分前ですよあれは。だからそのあたりのことっていうのは、予算をつけて事業として、するせんの話じゃなくて、やっぱり民間の企業がどうしたらそのあたりの成長を見るかとか、それによって伊勢市のほうの納税が増えるかとか、そんなことっていうのは当たり前前に考えてもらわんと困るんじゃないかなと思うので、そのあたりのシステムを財政課さんは「予算を予算を」っていうか分からんけども、その前の事業としては、国でこんな事業があるんやというのは僕らも初めて知りましたもんね。やっぱりそれは私らの勉強不足だけではなくて、国から出る補助の整理をきちっとやりながら広報していただきたいと思うんですけど、そのあたりもう一度お答えいただけませんか。

◎福井輝夫委員長
産業観光部長。

●佐々木産業観光部長

いろいろ御心配をおかけしております。大変申し訳ないと思っております。

今後事業を進めていく上で、市民目線、企業目線、そういったところを積極的に力を入れながらアンテナも高くしながら、こういうことがないようにしっかりと努めてまいりたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。

◎福井輝夫委員長
宿委員。

○宿典泰委員

分かりました。

ところで、これが話出たってことはもう大体何か手挙げるところが2社ぐらいあるということなんですか。それだけ教えてください。

◎福井輝夫委員長

商工労政課副参事。

●南商工労政課副参事

申請、これまで今年度に入ってから問合せが合わせまして7件ほど届いております。問合せが来ております。

その中で、その相談の内容が制度的なところの確認の内容から実際にこれぐらい取りかかりたいというふうな内容までありまして、2件ほど実際に取組がほぼ固まっているという情報の中で整っているというのがちょっと確認させていただいてます。

あくまで公募、12月の議会の定例会のほうで、その債務負担行為を認めていただいた後にちょっと公募のほうをさせていただいて、市の中で選定させていただいた上で、国のほうに申請をさせていただきたいというふうに考えております。以上でございます。

◎福井輝夫委員長

他に御発言はございませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

◎福井輝夫委員長

他に御発言もないようですので、本件についてはこの程度で終わります。

以上で本日御協議…

[「委員長、申しわけないです」と呼ぶ者あり]

◎福井輝夫委員長

宿委員。

○宿典泰委員

伊勢駅前のB地区市街地のことで、収支を頂いたんですけど、私は今の動向からすると、あれだけやはり伊勢市駅前の状況が全然この1階も変わってない状況の中で、やはり特別、産建の中でこの関係の説明をやっぱりもう一度担当課から、もう少し詳しい資料を頂きながら報告をいただきたいと思うんですよ。数字のことが書かれておって、収支というのもしとるわけですから、そのあたりのことも含めてやると、長い年月の中でどうなっていくんだろうと。

ましてや伊勢市の場合は人口減少で、なかなか思ったような収支が取れへんのと違うかなとか、まだ1階もそんな状況の中でということになると、B地区も今度C地区も建ってくるので、C地区っていうのは補助金だけの話で、あとは単独で事業をされていくわけですから、そんなに伊勢市に対して、何か負担をこれから強いられるようなことはないとは思いますが、B地区の場合はそんなわけにはなりませんよね。15年ぐらいしたらもう返してもらおうというようなことになるわけで、そのときに駄目ですわということになったら、大変なことになりますので、ちょっと長期の見通しっていうのを私らは知りたいし、報告をきちっとこの委員会でやってもらえようをお願いをしたいと思います。

◎福井輝夫委員長

分かりました。

今、宿委員から御提案ございましたけど、B地区の収支を先日頂きました。それについて非常に重要な案件でもありますし、長期にかかるいろんな問題、これからもやっぱり産業建設委員会としては検討していかなきゃならない事項であろうかということもございますので、今のことにつきまして、今後、産業建設委員会で議題に上げながらもんでいきたいという気持ちも私としてもございますし、それについて当局のほうから一言、それについての報告についてのことで、ちょっと何かありましたら、ちょっと御発言をいただけますか。

◎福井輝夫委員長

都市整備部長。

●荒木都市整備部長

先ほど委員のほうから御意見ございましたので、具体的にどうしていくかというのはまた御相談させていただきまして対応していきたいと思っております。以上です。

◎福井輝夫委員長

ありがとうございます。

今後、対応についても検討をいただくということでございますので、よろしく願いいたします。

以上で宿委員よろしいですか。

○宿典泰委員

はい。

◎福井輝夫委員長

それでは、以上で本日御協議いただきます案件は終わりましたので、これをもちまして産業建設委員協議会を閉会いたします。

閉会 午前11時17分